



# ゆたかっこ

学校だより 3月号 ㊹  
豊見城市立ゆたか小学校  
豊見城市字豊見城 601 番地 1  
TEL850-6639 FAX850-3940  
校長 宮平 やすみ

## 夢にむかってたくましくはばたけ! ゆたかっこ! ～保護者の皆様、ありがとうございます～

今年度のゴールはどうなることかと思いましたが、皆様のご理解とご協力のおかげで「卒業式」も無事に開催することができました。この一年間も、子ども、親、そして教師も共に成長できたことがたくさんあったと思います。私たち大人は、子どもを育てながら、子どもに育てられて、より親らしく教師らしくなっていくのかもしれない。学校は、問題を起こさない安心安全な環境づくりが大事なことは当然ですが、問題が起きたときに、どう対応するか、子どもをどう導くか、それを協力して問題解決に努めてくださったゆたか小学校の保護者の皆様の温かいご支援に感謝の気持ちでいっぱいです。

朝は、全校児童の元気な笑顔とあいさつでパワーをもらい、下校時になると、毎日かわいい1年生が校長室のドアを開けて「校長先生さようなら」と言って帰る姿に癒やされました。一年間の子ども達の成長は本当にすごいなと思います。これから担任から手渡される「よいこのあゆみ」には、一人一人への愛情と応援する気持ちが込められています。限られた文字数で伝えたい思いが難しい言葉づかみになっている部分もあります。担任からのメッセージをかみくだいて子どもに伝えていただければ幸いです。この一年間を振り返り次年度はさらにステージをあげて挑戦する意欲につなげてほしいと思います。

### 転出する職員紹介

【教頭】  
永山 清 (伊平屋村立野甫小学校)

【教諭】  
宮城 実子 (糸満市立兼城小学校)

上原 馨 (豊見城市立伊良波小学校)

金城 由紀子 (八重瀬町立東風平小学校)

高江洲 美陽 (沖縄市立美原小学校)

仲間 翼 (糸満市立潮平小学校)

大城 つかさ (八重瀬町立具志頭小学校)

上原 実生 (豊見城市立伊良波小学校)

玉城 良樹 (豊見城市立座安小学校)

山城 あやめ (豊見城市立豊見城小学校)

森田 早苗 (静岡県内小学校)

### 【学校事務】

新垣 五穂子 (糸満市立西崎小学校)

### 【初任者指導・非常勤講師】

知念 智行 (退職)

金城 愛理 (退職)

### 【県・市派遣職員】

学校司書 坂口 悦子 (市中央図書館)

学校庶務 宜保 健彦 (上田小学校)

学力向上補助員 野邊 かすみ (退職)

特別支援員 清水 春乃 (豊見城小学校)

登校支援員 金城 明美 (とよみ小学校)

それぞれの場所で、自分の花を咲かせてくれることを願っています。



### ご協力のお願い～春休み中に～

早速、次年度へ向けてお願いです。毎年、新学期にたくさんの提出物をお願いしています。保護者の負担軽減と、提出物回収の効率をあげるため、早めに配布することにしました。春休み～新学期始めの期間、家事やお仕事の合間に、提出物に記入していただきますようお願い申し上げます。提出期限等のくわしいことは、新学期に改めて説明します。

(提出物) 保健・健康関係書類、  
児童・家庭情報カード



花のメッセージ  
卒業・進級おめでとう!  
夢

## 3.11 校長講話より (校内放送)

2011年3月11日 午後2時46分 東北で大地震による津波が発生しました。みなさんはまだ小さかったり、産まれる前のことなのでピンと来ないかもしれませんが、テレビに写った様子は、これが本当に日本で起きていることなのか信じられないようなとても恐ろしい映像でした。この震災で1万5、899名の命が奪われ、2、529名の行方がわかっていません。いつも自分の隣にいた家族やお友達が、突然いなくなってしまう、今もその悲しみを忘れられない人々がたくさんいます。

もうすぐ卒業する6年生は、卒業文集にどんな夢を書きましたか。原発事故で住む場所を奪われ、多くの人々が引っ越した福島県楢葉町の6年生がタイムカプセルに入れた手紙は、自分だけの願いではありませんでした。「震災前よりも町が発展して、いっぱい人が戻ってきてほしい」

9年たった今も被災した人々は、大切な人を失った悲しみを忘れることはありません。けれど、それを乗り越えて前に進もうとがんばっている人々がたくさんいます。被災地の復興も少しずつ進み、町の姿を取り戻しつつあるそうです。でも、そこに住んでいた人が安心して戻ってこられるような状態にはなっていない所もまだ多く残っているそうです。

新型コロナの感染拡大で、今年の東日本大震災追悼式は中止となりました。でも、9年前の大きな出来事を私たちは忘れてはいけません。「がんばろう！東北。がんばろう！ニッポン。」という言葉が日本中にあふれ、お互いを思いやる助け合う気持ちが全ての人を勇気づけました。あの時、日本中が東北を応援し一緒に乗り越えようとする人の優しさ、温かさ、絆の強さに心から感動したことを覚えています。

困っている人、苦しんでいる人、悲しんでいる人のために、自分は何ができるかを考える。今日は、学級で、家族で、命の大切さ、命を守ることの大切さを話し合う日にしてください。

最後に、9年前の東日本大震災の日、お母さんのお腹の中にいた奥田りさとさんが書いた詩を紹介します。りさとさんのお父さんは、津波に流され帰らぬ人となりました。だから、りさとさんはお父さんの思い出がありません。そんなりさとさんが「パパに知ってもらいたいこと、パパに会いたいことを書いた」詩です。言の葉コーナーにもはっているの、読んでくださいね。



### あいたいよ パパ

パパ あかね  
つなみのときは  
ママと  
ママのおなかのなかのわたしを  
まもってくれてありがとう

パパ あかね  
パパがてんごくにいったあと  
七月十二日に  
わたしが生まれたよ

パパ あかね  
わたしは もう  
一年生になったから  
しんばいしないでね  
お空の上で  
ずっと生きていてね

パパ あかね  
ママからきいたよ  
パパは  
テニス やきゅう スキーが  
すこく じょうずだって  
とつてもかっこいいよ

パパ あかね  
ママとおねえちゃん  
かみをかわいくむすんでくれるよ

二〇一一年、三月十一日におきた東日本大震災の時、まだお母さんのお腹にいた奥田りさとさんが天国にいるお父さんへ書いた詩です。

パパあかね  
ぼっぼは  
おんせんにつれていってくれるよ  
おりょうりもおいしいよ  
じっちは  
わたしがすきなニチャンネルを  
見せてくれるよ  
やさしいからね

びいちゃんは  
いつも わたしのめんどうを  
みでくれるよ  
こんどは わたしが  
びいちゃんのめんどうをみるよ

パパ あかね  
ママに ときどき  
しかられるときもあるけど  
パパのしゃんのまえにきて  
「ママにしかれたあ。」  
とはなすと  
パパのこえがきこえてきそうだよ

パパ いま  
どのお空にいるの  
おうちの上のくもの上かな  
あいたいよ パパ